

II 保健予防推進担当

1 感染症対策

(1) 感染症発生状況

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」により、管内医療機関の医師及び他の保健所から、三類感染症（腸管出血性大腸菌感染症）22件の届出があった。

また、四類感染症の届出は、レジオネラ症5件、五類感染症はアメーバ赤痢4件、後天性免疫不全症候群2件、梅毒2件、麻しん3件、髄膜炎菌性髄膜炎1件、風しん1件の届出があった。

三類感染症（腸管出血性大腸菌感染症） 平成23年度

患者 届出数	患者等 届出事項 通知件数	就業制限 件数	消毒実施 命令件数	接触者検診（便検査）		
				件 数	結 果	
					陽性	陰性
22	22	22	22	115	11	104

(2) 新型インフルエンザ

「平成23年度埼玉県南西部保健医療圏地域保健医療協議会」

実施日	内 容	出席者
平成24年 1月19日	研修会 「新型インフルエンザの動向について」 講師：国立保健医療科学院 健康危機管理研究部 部長 金谷泰宏	医師会、救急病院 関係者、薬剤師会 各市町保健センター 朝霞保健所職員 37名

(3) エイズその他の感染症

エイズ相談・抗体検査実施状況 平成23年度

抗体検査数	相談件数
356	1,169

性感染症に関する相談を検査日とともに随時に受付けて、早期発見に結びつけた。

(4) 結核対策

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、健康診断、患者管理、感染防止、結核医療を根幹として一貫した対策を行っている。

ア 健康診断、予防接種

(7) 定期健康診断

a 学校検診

平成23年度

種別 対象	胸部レントゲン検査	発見患者数
高等学校	3, 230	—
大学・短大	4, 421	—
その他	710	—
合計	8, 361	—

b 結核検診（乳幼児のBCG接種と成人の胸部レントゲン検査） 平成23年度

市別	種別	乳幼児の BCG 接種	成人の 胸部レントゲン検査	発見患者		
				患者	潜在性結 核感染者	発病のお それあり
朝霞市	6ヶ月未満	1, 221	12, 584	1	—	—
	1年未満	8				
志木市	6ヶ月未満	630	4, 089	—	—	—
	1年未満	—				
和光市	6ヶ月未満	898	—	—	—	—
	1年未満	1				
新座市	6ヶ月未満	1, 385	6, 542	—	—	8
	1年未満	3				
富士見市	6ヶ月未満	912	10, 872	—	—	5
	1年未満	—				
ふじみ野市	6ヶ月未満	837	12, 839	—	1	—
	1年未満	5				
三芳町	6ヶ月未満	263	4, 438	—	—	—
	1年未満	—				
管内計	6ヶ月未満	6, 146	51, 364	1	1	13
	1年未満	17				

(イ) 結核接触者健康診断

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」第17条に基づく接触者健康診断の実施状況である。

これは、結核接触者健康診断の手引きに基づくものである。

平成23年度

種別	ツベルクリン 反応検査	エックス線検査		喀痰検 査	QFT検 査	患者発見等	
		間接撮影	直接撮影			患者	発病の おそれあり
人 数	226	—	825	—	502	4	61

イ 患者管理

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の規定により、届出を受けたときその者の登録を行っている。

この登録は、効果的な予防対策とともに患者管理の充実を図るため、全国レベルで実施している。

平成23年の新規登録者数は、100名である。

また、平成23年12月31日現在の登録患者数は251名である。

(7)新登録患者数（活動性分類）

平成23年

種別 市別	活 動 性 結 核							合計	潜在性 結核 感染症 (別掲)
	肺 結 核 活 動 性						肺外 結核 活動性		
	喀 痰 塗 抹 陽 性			その他の 結核菌 陽性	菌陰性 ・ その他	小計			
	初回 治療	再治療	小計						
朝 霞 市	11	—	11	5	7	23	4	27	18
志 木 市	4	—	4	5	4	13	2	15	4
和 光 市	2	—	2	—	—	2	3	5	16
新 座 市	4	—	4	4	3	11	6	17	8
富士見市	11	—	11	3	4	18	4	22	14
ふじみ野市	8	—	8	2	—	10	2	12	5
三 芳 町	1	—	1	—	—	1	1	2	12
合 計	41	—	41	19	18	78	22	100	77

(イ)新登録患者数（年齢別、市別）

平成23年

市別 年齢	朝霞市	志木市	和光市	新座市	富士見市	ふじみ野市	三芳町	計
0～9歳	—	—	—	—	—	—	—	—
10～19歳	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29歳	2	—	1	1	—	—	—	4
30～39歳	4	2	—	3	2	—	—	11
40～49歳	7	5	1	1	1	2	—	17
50～59歳	2	2	1	2	1	1	—	9
60～69歳	2	—	—	4	5	3	1	15
70歳以上	10	6	2	6	13	6	1	44
合計	27	15	5	17	22	12	2	100

(ウ)登録患者数（活動性分類）

平成23年12月31日現在

種別 市別	活動性結核								不活動性結核	活動性不明	総計	潜在性結核感染症 (別掲)
	肺結核活動性						肺外結核活動性	合計				
	喀痰塗抹陽性			その他の結核菌陽性	菌陰性・その他	小計						
	初回治療	再治療	小計									
朝霞市	11	—	11	5	5	21	3	24	—	30	54	35
志木市	2	—	2	4	4	10	2	12	—	18	30	10
和光市	2	—	2	—	—	2	2	4	—	26	30	28
新座市	4	—	4	3	3	10	6	16	—	51	67	24
富士見市	8	—	8	3	4	15	4	19	—	16	35	16
ふじみ野市	7	—	7	1	—	8	1	9	—	19	28	9
三芳町	—	—	—	—	—	—	1	1	—	6	7	16
合計	34	—	34	16	16	66	19	85	—	166	251	138

(エ)管理検診

結核登録患者で医学的情報を把握する必要のある者に対して健康診断を実施している。

平成23年度

実施場所	種別	直接撮影	間接撮影	発見患者	
				患者	おそれあり
保健所		12	—	—	—

ウ 保健指導

他の者に感染させるおそれの高い、喀痰塗抹陽性患者に対する訪問、面接などについて特に重点を置いており、平成17年度からは患者の治療完了率の向上を図ることを目的に「服薬確認を軸とした患者支援（「DOTS」という）」を実施している。

患者及び家族への保健指導の内容は、結核に対する知識の普及、内服薬等の指導、接触者健診の勧奨、療養の指導、結核の管理システムについてなどである。

また、接触者については、当保健所で作成したリーフレット等を用いながら結核に対する知識の普及及び健診の必要性について説明している。

平成23年度

相 談		訪 問 指 導			
電 話	来 所	実人員	(再掲)DOTS	延人員	(再掲)DOTS
3, 9 3 6	5 7 4	1 0 1	6 5	6 3 0	2 8 0

エ 適正医療の確保

診査協議会において、入院勧告、結核医療費公費負担申請に関する必要事項を審議している。

朝霞保健所感染症診査協議会

平成23年度

開催回数	延べ診査件数	1回当たりの件数
24回	318件	平均 約13件
内 訳	第19条・第20条 入院勧告（就業制限）	35件
	公費負担（第37条） （継続申請を含む）	70件
	公費負担（第37条の2） （継続申請を含む）	248件



2 難病対策

(1) 指定疾患医療給付事業

ア 特定疾患 計 3,752件

発生の原因・治療方法の確定されていないいわゆる難病のうち、特定の疾患を指定疾患（特定疾患・小児慢性疾患・先天性血液凝固因子欠乏症等）と定めて、医療給付を行い、適正な医療の普及と患者家庭の医療費の負担軽減を図っている。

平成24年3月31日

疾病番号	疾患名	受給件数	疾病番号	疾患名	受給件数
01	ベーチェット病	83	33	特発性大腿骨頭壊死症	58
02	多発性硬化症	82	34	混合性結合組織病	54
03	重症筋無力症	85	35	原発性免疫不全症候群	*
04	全身性エリテマトーデス	322	36	特発性間質性肺炎	32
05	スモン	*	37	網膜色素変性症	123
06	再生不良性貧血	44	38	プリオン病	*
07	サルコイドーシス	114	39	肺動脈性肺高血圧症	9
08	筋萎縮性側索硬化症	29	40	神経線維腫症	16
09	強皮症・皮膚筋炎・多発性筋炎	217	41	亜急性硬化性全脳炎	—
10	特発性血小板減少性紫斑病	100	42	バッド・キアリ症候群	—
11	結節性動脈周囲炎	49	43	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	8
12	潰瘍性大腸炎	631	44	ライソゾーム病（ファブリー病）	*
13	大動脈炎症候群	19	45	副腎白質ジストロフィー	*
14	ビュルガー病	22	46	家族性高コレステロール血症	—
15	天疱瘡	28	47	脊髄性筋萎縮症	*
16	脊髄小脳変性症	84	48	球脊髄性筋萎縮症	6
17	クローン病	144	49	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	9
18	難治性の肝炎のうち劇症肝炎	*	50	肥大型心筋症	*
19	悪性関節リウマチ	33	51	拘束型心筋症	—
20	パーキンソン病関連疾患	398	52	ミトコンドリア病	7
21	アミロイドーシス	*	53	リンパ脈管筋腫症（LAM）	—
22	後縦靭帯骨化症	141	54	重症多形滲出性紅斑（急性期）	—
23	ハンチントン病	*	55	黄色靭帯骨化症	6
24	モヤモヤ病（ウィリス動脈輪閉塞症）	64	56	間脳下垂体機能障害	61
25	ウェゲナー肉芽腫症	9	61	※溶血性貧血	13
26	特発性拡張型（うっ血型）心筋症	61	62	※橋本病	336
27	多系統萎縮症	62	64	※特発性好酸球増多症候群	7
28	表皮水疱症	*	66	※脊髄空洞症	8
29	膿疱性乾癬	7	70	※原発性慢性骨髄線維症	*
30	広範脊柱管狭窄症	32	71	※原発性抗リン脂質抗体症候群	—
31	原発性胆汁性肝硬変	104			
32	重症急性膵炎	*			

※県単独事業
* 5名以下

イ 先天性血液凝固因子欠乏症

99	先天性血液凝固因子欠乏症	15
----	--------------	----

ウ 小児慢性特定疾患

【4 母子保健 (1) 医療給付等受給状況 オ 小児慢性特定疾患 P36に掲載】

(2) 難病相談事業

ア 難病相談・療養指導等

- ・ 申請時相談等（電話相談を含む）延べ件数 15,344件
- ・ 訪問指導 実人員 21名

（神経難病・筋萎縮性側索硬化症を中心に行っている）

延べ人員 43名

イ 神経難病講演会・交流会（パーキンソン病友の会との共催） 2回実施

神経難病の患者・家族を対象に医療相談会、講演会を行った。

講演会「神経難病患者様のための言語リハビリテーション」

平成23年9月 7日 参加者55名

平成24年2月15日 参加者79名

ウ 筋萎縮性側索硬化症交流会

筋萎縮性側索硬化症の患者・家族・関係者を対象に交流会を行った。

平成23年12月17日 朝霞保健所会場 参加者49名

エ 難病患者等ホームヘルパー養成研修(難病基礎過程Ⅱ)

難病患者等ホームヘルパー養成研修事業運営要領に基づき、狭山保健所への協力を行った。

オ 埼玉県難病医療連絡協議会事業地区研修会（朝霞保健所共催事業）

関係者を対象に研修会を実施した。

内容 「筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の在宅療養支援」

平成24年1月17日 参加者67名

平成24年2月10日 参加者61名

3 原爆被爆者対策

原爆被爆者等に対し健康診断を行うとともに、各種手当の支給等を行い、被爆者の健康と生活の援助に努めた。

(1) 健康手帳所持者数

平成24年3月31日現在

管内計	朝霞市	志木市	和光市	新座市	富士見市	ふじみ野市	三芳町
308	49	31	43	90	37	45	13

* 健康診断受診者証所持者7名

(2) 申請（一般疾病療養費等） 申請者数 177名

4 肝炎インターフェロン治療医療費助成

(1) 肝炎インターフェロン治療受給者証申請件数

平成24年3月31日現在

申 請	件 数
インターフェロン 新規	40件
インターフェロン 2回目	2件
核酸アナログ製剤 新規	48件
核酸アナログ製剤 更新	110件
返戻後再申請	1件
期間延長 72週延長	9件
期間延長 副作用延長	6件
合 計	216件

5 母子保健

(1) 医療給付等受給状況

ア 養育医療

指定医療機関に入院した未熟児に対して、養育に必要な医療費を給付した。

平成23年度

市別	区分	申請件数		承認件数	
		新規	継続	新規	継続
朝霞市		34	—	34	—
志木市		17	—	17	—
和光市		29	—	29	—
新座市		38	—	38	—
富士見市		30	—	30	—
ふじみ野市		29	1	29	1
三芳町		9	—	9	—
管内計		186	1	186	1

出生体重別承認件数

出生体重	1,000g未満	1,500g未満	1,800g未満	2,000g未満	2,300g未満	2,500g未満	2,500g以上	合計
件数	18	22	37	31	22	13	43	186

イ 自立支援医療（育成医療）

身体に障害のある児童に対し、治療に必要な医療費を給付した。

平成23年度

市別	区分	申請件数		承認件数	
		新規	継続	新規	継続
朝霞市		40	11	39	11
志木市		10	4	10	4
和光市		16	7	16	7
新座市		23	12	23	12
富士見市		15	9	15	9
ふじみ野市		34	10	34	10
三芳町		3	1	3	1
管内計		141	54	140	54

疾患群別承認件数

種別	01 肢体 不自由	02 視覚 障害	03 聴覚・ 平衡機 能障害	04 音声・言語 ・そしゃく 機能障害	05 心臓 障害	06 腎臓 障害	07 小腸 機能 障害	08 肝臓 機能 障害	09 その他 の内臓 障害	10 免疫機 能の障 害	合計
新規	25	13	4	31	45	2	1	1	18	—	140
継続	4	—	—	48	1	—	1	—	—	—	54
合計	29	13	4	79	46	2	2	1	18	—	194

ウ 療育給付

骨関節結核その他の結核にかかっている児童に対し、治療に必要な医療費を給付し、学習用品や日用品を支給するものである。平成23年度は申請がなかった。

エ 妊娠中毒症等療養援護費

妊娠中毒等により患し、必要な医療を受けるため7日以上入院した低所得世帯等の妊婦に対し、その療養に要する費用の一部を支給するものである。平成23年度は申請がなかった。

オ 小児慢性特定疾患

発生の原因・治療方法の確定されていないいわゆる難病のうち、特定の疾患を指定疾患と定めて、医療給付を行い適正な医療の普及を図っている。

受給者証所持者数

平成23年度中

疾患番号	疾患名	管内計	朝霞市	志木市	和光市	新座市	富士見市	ふじみ野市	三芳町
1	悪性新生物	97	22	6	12	26	17	8	6
2	慢性腎疾患	46	9	4	4	12	9	6	2
3	慢性呼吸器疾患	24	5	1	2	4	5	6	1
4	慢性心疾患	142	35	13	11	38	20	18	7
5	内分泌疾患	161	32	18	10	44	24	23	10
6	膠原病	20	3	2	1	2	3	7	2
7	糖尿病	44	9	3	3	10	7	8	4
8	先天性代謝異常	38	5	6	2	14	7	3	1
9	血友病等血液疾患	22	6	—	2	3	2	7	2
10	神経・筋疾患	23	4	1	5	3	5	3	2
11	慢性消化器疾患	8	1	1	—	3	2	1	—
合計		625	131	55	52	159	101	90	37

カ 不妊治療費助成事業

不妊治療（体外受精及び顕微授精）を受けた方を対象に、1回の治療につき15万円まで、助成をしている。

【助成回数】1年度目…1年度あたり3回まで

2年度目以降…1年度あたり2回までを限度に、通算5年度まで

（ただし、通算10回を超えない）

申請 844件

平成23年度

延人員内訳	朝霞市	志木市	和光市	新座市	富士見市	ふじみ野市	三芳町	合計
1年度目	139	60	65	94	81	57	26	522
2年度目	28	18	29	42	37	30	16	200
3年度目	12	12	9	8	12	20	2	77
4年度目	6	—	2	7	7	9	—	31
5年度目	4	—	3	5	3	1	—	14
合計	189	90	108	156	140	117	44	844

(2) 母子保健に関する健康相談

こどもの心の健康相談

こどもの精神的な発育発達に関し、精神科医及び臨床心理士による専門相談を10回実施し、11名(延べ25名)の相談を実施した。

(3) ハイリスク児の子育て支援教室

わくわく子育て教室(極低出生体重児の子育て教室)

平成21年度以降に生まれた極低出生体重児等(出生体重1,500gを目安)を対象に実施した。

平成23年度

年月日	内容	講師	参加者		
			母等	子	計
H23.11.24	小さく生まれたお子さんの特徴 ～成長と発達の経過について～	未熟児・新生児科 医師	8	4	12
H23.12.1	小さく生まれたお子さんとの生活	未熟児・新生児科 看護師	8	5	13
H23.12.22	お母さんのほっとタイム お母さんだけのおしゃべりタイム ～“お母さん”になった私～	臨床心理士	6	3	9
合計(延べ)			22	12	34

(4) 母子保健相談及び家庭訪問

ア 訪問指導

養育医療等の給付を受けた極低出生体重児、障害児、産婦の健康状態不良、家庭環境などを考慮し、家庭訪問による養育指導を行った。

平成23年度、管内7市町すべてに未熟児訪問指導の権限を委譲した。

平成23年度

	妊婦	産婦	未熟児	新生児 (未熟児は除く)	乳児	幼児	その他	合計
実人員	1	5	4	2	—	6	2	20
延人員	1	8	8	2	—	16	3	38

イ 保健指導

医療の申請等での面接では児や家族の健康相談、各種制度や相談窓口の説明、電話相談は育児や医療給付制度に関する相談が主な内容であった。

平成23年度

面接(延べ人員)						電話	合計
妊婦	産婦	乳児	幼児	その他	小計		
1	—	207	18	8	234	245	479

(5) 母子保健に関する講演会・研修会

ア 管内母子保健関係者への会議・研修

(ア) 「母子保健事業連絡調整会議」	計	5回
(イ) 「母親支援に関する研修会」	計	2回
(ウ) 「子どもの心の問題に関する研修会」	計	2回

(6) ふれあい親子支援事業

家族等の人間関係などでストレスを感じたり、子育てに自信をなくしている母親を対象に、児童虐待予防を目的として、グループワーク事業を実施している。

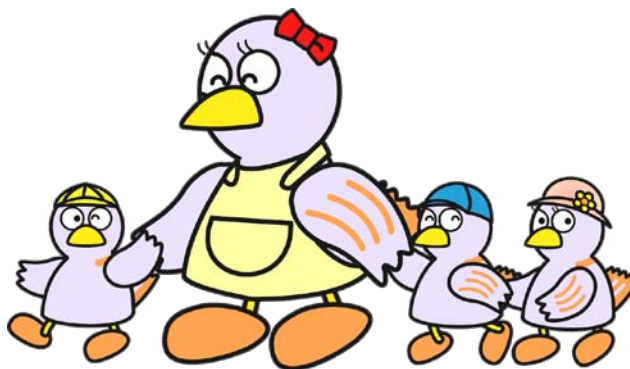
ア 事例検討（受理会議）

12回実施 検討事例23件

イ グループワーク

臨床心理士がファシリテーター、保健所保健師が記録等を担当し、グループ参加時間中は参加者の子の保育を行った。

12回実施 利用者 実 6名 延べ26名
保育 延べ40名



6 栄養・健康増進

(1) 栄養指導等

平成23年度(件)

区分 対象者	個別指導			集団指導			
	栄養指導	運動指導	禁煙指導	栄養指導	運動指導	禁煙指導	その他
妊産婦	—	—	—	—	—	—	—
乳幼児	—	/	/	/	—	/	/
20歳未満 (乳幼児を除く)	—	—	—	—	—	—	—
20歳以上 (妊産婦を除く)	45	—	105	639	—	54	—

(2) 栄養関係団体育成事業

ア 地域活動栄養士

定例会への活動支援 11回 延べ115人

イ 給食施設従事者

給食施設から健康づくりを推進するため、給食施設従事者の人材育成・支援の一環として、栄養管理、衛生管理における知識及び意識の向上を目的に、研修会を実施した。

実施日	テーマ・内容	講師	参加者数
H23. 6. 21	(1) 講習会 「食中毒の基礎と給食施設における衛生管理」 (2) 実践発表 「学校給食における衛生管理の 取り組みについて」 (3) 情報提供 「給食施設栄養管理状況報告書の 集計結果について」	埼玉県衛生研究所 食品媒介感染症担当 朝霞市浜崎学校食 センター 学校栄養職員 益子 京子 氏 保健予防推進担当 管理栄養士	186名
H24. 3. 2	生活習慣病予防研修会 「生活習慣病の食事療法について」	帝京大学医学部 附属病院 栄養部 朝倉 比登美 氏	38名

(3) 食育普及研修会

地域における食育関係機関の連携と関係者の意識の向上を図ることを目的に、食育普及研修会を実施した。

実施日	テーマ・内容	参加者
H23. 11. 25	<p>就活前の食育普及事業</p> <p>(1) アンケート調査</p> <p>(2) 講演 演題「社会人になる前に、知っておきたい体のこと、食のこと」 講師 国立保健医療科学院生涯健康研究部 上席主任研究官 瀧本 秀美 氏</p>	<p>十文字学園女子大学 1年生及び3年生</p> <p>232名</p>
H24. 2. 22	<p>食育普及研修会</p> <p>(1) 講話 「保育所、幼稚園における感染症予防について」 朝霞保健所 保健予防推進担当</p> <p>(2) 講演 演題「食べる力の基礎を培う食育の推進」 講師 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 日本子ども家庭総合研究所 母子保健研究部栄養担当部長 堤 ちはる 氏</p> <p>(3) 実践発表 「保育園における食育の取組について」 社会福祉法人千曲会 光第二保育園 管理栄養士 大塚 悠 氏</p>	<p>保育所、幼稚園、 市町（保健・保育） における食育担当者 地域活動栄養士会 等</p> <p>62名</p>

(4) 地域・職域連携推進事業

ア 地域・職域連携推進担当者会議

各市町で実施する特定健診・特定保健指導事業が円滑、かつ効果的に実施できるよう支援をおこなった。

実施日	テーマ・内容	参加者
H23. 7. 1	<p>特定健診・特定保健指導の円滑な実施に向けて</p> <p>(1) 実践報告 「受診率向上に向けての取組」 志木市健康福祉部健康づくり支援課 主査</p> <p>(2) 情報提供 「受診率向上に向けての県内の状況&トピックス」 県健康づくり支援課 健康推進・食育担当 主査</p> <p>(3) 情報及び意見交換</p>	<p>管内各市町国保（特定健診）・衛生（特定保健指導）主管課</p> <p>14名</p>

実施日	テーマ・内容	参加者
H24. 3. 9	平成 24 年度特定健康診査等実施計画に向けての情報交換 (1) 実践報告 「効果的な保健指導実践の取組」 ふじみ野市健康保険課 保健師 (2) 情報提供 「データからみえる地域の姿」 埼玉県国民健康保険団体連合会 (3) 情報及び意見交換	管内各市町国保(特定健診)・衛生(特定保健指導) 主管課 13名

イ 地域・職域連携推進会議

実施日	テーマ・内容	参加者
H23. 10. 21	研修 テーマ「働き盛り世代のうつ病・自殺とどう向き合うか」 講師 自殺予防総合対策センター 自殺予防対策支援研究室 室長 川野 健治 氏 意見交換 「特定健診受診率及び保健指導率の向上に向けて」 (1) 埼玉県における取組 県健康づくり支援課 健康増進・食育担当 主査 (2) 市町及び関係機関における取組	地区医師会、 管内各市町国保(特定健診)・衛生(特定保健指導) 主管課 地域活動栄養士会、 労働基準監督署、 各市町商工会、J A、 健康管理室(診療所) を有する管内事業所 21名

ウ 特定健診受診率向上事業

実施日	テーマ・内容	参加者
H23. 9. 28	講義・演習 テーマ「行列のできる講座・チラシの作り方」 講師 NPO法人 男女共同参画おおた 理事長 牟田 静香 氏	管内各市町国保(特定健診)・衛生(特定保健指導) 主管課 25名

エ 効果的な保健指導実施支援事業

管内モデル市(ふじみ野市)を対象として、保健指導実務者等のスキルアップ及び保健指導の質の向上目指して事業をおこなった。

内容	参加者数(延べ)
担当者会議 実施回数7回(6、7、8、9、12、2月) *6月は2回開催	27名
学習会 実施回数3回(10、11、1月)	45名

(5) 受動喫煙対策

受動喫煙対策の一環として、「埼玉県全面禁煙・空間分煙実施施設」の認証制度の推進を図った。

平成23年度

種 別	全面禁煙	空間分煙	合 計
保健・福祉・医療機関	201	1	202
教育関係機関	140	1	141
文化・運動施設	19	1	20
飲食店等	47	1	48
その他民間施設等	2	—	2
官 公 庁	27	—	27
合 計	436	4	440

(6) 給食施設指導

(件)

給食管理指導 延べ施設数	特 定 給 食 施 設		その他の 給食施設	合 計
	1回100食以上 又は 1日250食以上	1回300食以上 又は 1日750食以上		
	97	44	87	228

7 歯科保健

(1) 保健所歯科保健推進会議

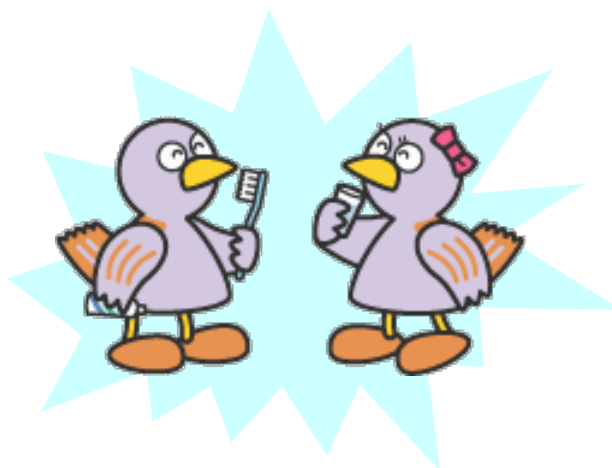
保健所と管内市町、地域の歯科医師、歯科衛生士との連携を図ることを目的に、会議を実施した。

実施日	テーマ・内容	参加者
H23. 10. 20	(1) 講演 「8020達成型県民社会実現のために」 講師 埼玉県歯科医師会地域保健部 出浦 恵子 先生 (2) 事例発表 テーマ「地域歯科保健における取り組みについて」 ①「志木市歯科保健条例制定への取組について」 志木市健康福祉部健康づくり支援課 主査 ②「医療・介護・福祉連携の試み」 ～飯能市の事例を参考にして～ 入間郡市歯科医師会地域保健委員長 大野 康 先生 (3) グループディスカッション テーマ「歯科口腔保健の推進について」	朝霞地区歯科医師会 入間郡市歯科医師会 埼玉県歯科衛生士会 朝霞支部、 管内市町関係者 (保健・教育・介護) 保健所職員 31名

(2) 歯科訪問事業

社会福祉施設に入所している心身障がい者等の口腔状態の改善を図ることを目的に、歯科検診、歯科保健指導等を実施した。

実施日	場所	受診者	従事者
H23. 10. 6	にいざ生活支援センター	13名	朝霞地区歯科医師会 あさか向陽園歯科医師 埼玉県歯科衛生士会朝霞支部 保健所職員 7名



8 精神保健福祉

保健所は地域精神保健福祉活動の中心機関として、地域住民の保健福祉ニーズに応じ、様々な精神保健福祉サービス事業を実施している。

(1) 精神保健福祉相談及び訪問指導

保健師や精神保健福祉相談員により、随時相談及び訪問指導を行っている。新規の受付経路の内訳では、その他として警察から紹介されたものが増えている。市職員等から個別ケースの対応についての技術的支援を求められることが多い。

訪問・相談指導については、最近では、アルコール・薬物依存症関係の相談が増加傾向にある。

ア 相談及び訪問指導の実人員状況

平成23年度

実人員	(再掲) 新規の受付経路		
	市町村	医療機関	その他
279	20	10	249

イ 訪問指導状況

平成23年度

実人員	延べ人員					合計
	老人精神保健	社会復帰	アルコール	薬物	その他	
98	8	—	17	6	212	243

ウ 相談状況 (面接・電話による相談)

平成23年度

延べ人員							合計	(再掲) 電話相談 延人員
老人 精神 保健	社 会 復 帰	アル コ ー ル	薬 物	思 春 期	心 の 健 康 づ く り	そ の 他		
112	15	210	65	96	51	2,493	3,042	2,608

(2) 通報及び措置入院患者数

23年度の通報件数は、24条26件、25条4件、26条15件で、合計45件の通報があった。そのうち30件で精神保健診察を実施し、措置入院は26件であった。

(3) 精神保健福祉連絡調整会議

精神保健福祉事業運営上の検討、管内の連携強化を図るために管内市町を対象に4回開催した。

(4) 地域精神保健福祉対策推進事業

地域精神保健福祉の推進を図るため、関係機関職員、精神障害者家族、一般市民を対象に、研修会・相談事業等を開催した。

ア 個別支援技術研修会

精神障害者小規模作業所、各町市保健センター、健康増進センター・福祉関係職員を対象とした事例検討会を開催し、精神科医師がスーパーバイザーとして参加した。

全5回：参加者延べ75名

イ ひきこもり専門相談

臨床心理士による専門相談を毎月1回実施した。23年度の利用者は、延べ14名だった。

また、関係職員を対象に研修会を実施し、参加者は18名だった。

ウ 「小児精神連続講座」の開催

小児精神保健に関する課題を多角的にとらえ、子ども及び保護者への支援を地域の関係者と連携して展開できるよう知識、技術の普及のために実施した。

平成23年度は、管内の教育、児童福祉、保健センターの各関係者を対象に5回の連続講座を実施し、参加者は延べ296名だった。

エ 精神障害者地域移行支援研修会

精神障害者の地域移行に関する知識の普及を図り、地域でのサポート体制の構築について理解を深めていくため、管内の関係機関職員を対象に研修会を2回実施し、参加者は延べ63名だった。

(5) 自殺予防対策

自殺に傾いている住民が自殺を思いとどまり、安心して生きていける地域づくりの推進を目的に、以下の事業を実施した。

ア 住民向け講演会（朝霞市と共催） 1回実施 参加者59名

イ 関係職員向け講演会

(ア) 「自殺に傾いている人への対応」 1回実施 参加者16名

(イ) 「働き盛り世代のうつ病と自殺」 1回実施 参加者28名

(ウ) 「アルコール依存症を考える」 3回実施 参加者延べ63名

ウ 街頭PR 朝霞駅及び朝霞台駅にてそれぞれ1回実施 1,600名に対応